



ここまでできる 最新CT・MRI検査術シリーズ

第4回 部位別の検査の適応 - 心臓 -

今回は、新しく CT 装置にて撮影が可能となりました心臓検査について紹介します。

心臓

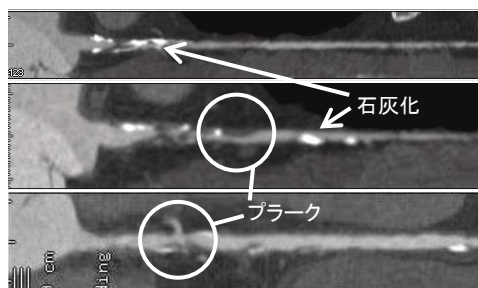
冠動脈 CT 検査は、カテーテル検査に比べ受検者の身体的負担を大幅に軽減するだけでなく（通常の造影 CT 検査と同程度の負担で済みます）、検査費用も 1 万円前後（3 割負担の方）と安価で気軽に冠動脈の評価ができる検査です。

多くの研究の結果、非常に高い陰性的中率（NPV：約 98%程度）を示していることが分かり、狭窄の有無などスクリーニング検査に有用なほか、無症状だが高脂血症や高血圧などのハイリスクな方から、労作時胸痛や狭心症・心電図異常など症状や所見の見られる方まで、狭窄の疑われる方に有用な検査です。

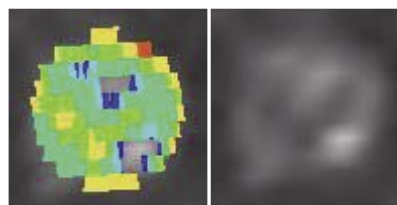
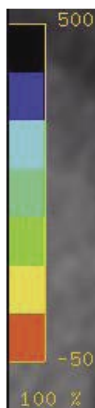
しかし、CT 装置での検査となりますのでご依頼いただくにあたり、いくつか注意していただく点があります。以下に示した注意事項をよくご確認の上ご依頼ください。

1. 検査を行う際、心拍数が高いと画像のぼけの原因となり正確な評価が出来なくなるため、β ブロッカー（セロケン）を処方し心拍を落としてから撮影を行います。β ブロッカー適応の可否をご確認ください。また、検査当日は 1 時間 30 分程度前（セロケンが 90 分程度で最大効果のため）には当センターまでお越しいただくようお願いいたします。検査時間は、30 分程度で終わります。（セロケンの処方当センターにて行います。）
※セロケンを用いなくても検査は出来ませんが、精度が落ちますのでご注意ください。
2. CT 装置の原理上、高度の石灰化・ステント留置後の再狭窄の評価・頻脈・β ブロッカー禁忌・極度の不整脈・不安定な心房細動・10 秒程度の息止めのできない方などは一部または大部分の評価ができない場合があります。ご注意ください。
3. 造影剤を用いた検査となりますので、造影剤禁忌・喘息・腎機能低下（クレアチニン 1.2mg/dl 以上）の方などは検査を行うことができません。

実際の検査時に心拍数を 60bpm 以下に落として検査を行うことにより、70%程度被ばくの低減が行える（胸部 CT 検査と同程度）ほか、ぼけの少ない画像が得られ、より正確な診断が行えます。ACS の早期診断に非常に有用な検査となります。なにとぞ、ご確認・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



Lumen 画像です。
冠動脈をまっすぐに引き伸ばした画像
です。
狭窄の有無が分かります。

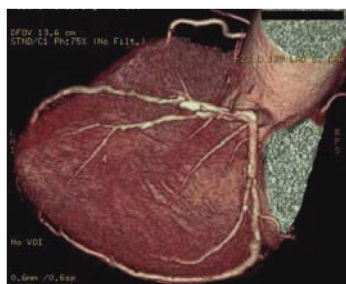


カラー表示した画像

元画像

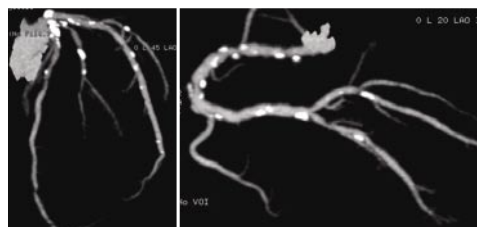
CT 値のスケールに合わせて冠動脈の横断像をカラー表示します。プラークの性質の目安にお使い下さい。

*ホームページ上ではカラーでご覧いただけます。

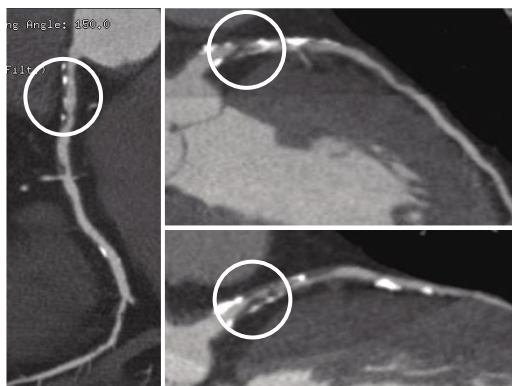


Volume Rendering 画像です。
3D での立体的な位置関係が分かります。

*ホームページ上ではカラーでご覧いただけます。



Angio Graphic 画像です。
Angio 画像に近い画像です。



Curved Planar Reconstruction 画像です。
冠動脈を 1 枚の面に張り付けた画像です。
狭窄の有無が分かります。

お問合せ先

広島原対協健康管理・増進センター ☎082-243-2451(代表) 8:30~17:00

予約受付先

コールセンター ☎0120-14-7191(フリーダイヤル) 8:30~19:30